

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372800189		
法人名	有限会社 フォーユー		
事業所名	グループホーム さくらの家(ほたるユニット)		
所在地	岡山県小田郡矢掛町矢掛2532-1		
自己評価作成日	平成28年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3372800189-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成28年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で利用者一人一人が安心して楽しく笑顔で過ごせるように心掛けています。又地域の人たちとのふれあいも大切にし、月一度の得々市や商店街の朝市などに参加しています。ご家族には、月一度お便りを送ったり、面会時には、利用者様の状況説明しご家族様との信頼関係も出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立から13年目を迎えているホームを初めて訪問させて頂いた。2つのユニットの利用者がリビングルームに集まってレクリエーションを楽しんでいる最中だった。各ユニットのリビングからは広いウッドデッキに開放されており、そこから芝生に覆われた庭に広がっている。社長は建築設計を営んでおり、「利用者が建物内に閉じ込められず、広い空間の中でのびのびと暮らしてもらいたい」という理念でこのホームを造ったそうだ。私も介護施設のあり方に共感を覚えた。ハード面では満足している中で、利用者に豊かな生活を充実させてもらうために、認知症になっても自分の居場所をつくってもらえるよう「心のケア」を指導させて頂いた。縮こまっている「こころ」を広げてあげるために職員と利用者一人ひとりのコミュニケーションを深めてもらい、豊かな心を持った生活をしてもらいたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・安全・尊厳を念頭にユニット会議などのミーティングの機会を設けている。	玄関・事務所に理念を掲示し、日々職員間で意識の共有をしている。今年度は地域との連携や職員各々のスキルアップと今後を担う介護士の人材育成を目標に掲げて、職員一同で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度矢掛駅で行われている得々市や、商店街の朝市、土曜夜市などに積極的に参加し、中学生ボランティアに来てもらったりして地域の人と交流が来ている。	地域のイベントには積極的に参加しており、小学校の運動会の見学に行ったり、秋祭りにはそれぞれの町内の「こども神輿」の訪問があり、日頃から地域交流を図る等、ホームの存在を地域の中に浸透させる為の工夫をしている。	地域との密接な連携を図ることを目標達成計画に掲げており、近隣に保育園・幼稚園等があり、交流を持ちやすい素晴らしい環境に恵まれているので、今後も積極的に交流する機会を作る為の工夫を重ねていきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会に参加後、運営推進会議にて現状報告をし評価をもらっている。月に一度職員教育で坐禅・写経に行きそこで地域の人のお話を聞き、又年に一度彼岸供養や甘茶会など行っている。年2回避難訓練も行っています。	年6回、町の担当職員、民生委員、家族代表、地域住民代表等が参加して、2か月毎に開催している。ホームの運営状況・活動報告や参加者との情報交換、意見交換をしており、議事録からも有意義な会議をしているのが分かる。また、議事録を玄関に置いて開示している。	年1回は家族会と同日に開催しており、また、毎回家族の代表が会議に参加しているが、もっと多くの家族にも参加してもらえるように、全家族に開催案内を出してみるのも良いと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議や書類の提出の際に情報交換を行ったり、保健福祉課の担当者にはいつでも相談援助していただく等連携に努めている。	運営推進会議に町の担当者の出席があり、情報交換をしたり、相談や助言をもらっている。生保の申請をしている人もいるので、町の担当者とは日頃から連携を取り合いながら、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全管理委員会を設置し、定期的な会議や勉強会を行い理解を深めながらケアに取り組んでいる。	玄関の施錠はなくオープンにしている。帰宅願望がある人には、職員が見守りながら付き添っている。高齢者虐待防止・身体拘束・スピーチロック等の研修を行い、職員間で周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会を行い身体面・精神的虐待のないよう利用者の声にみみを傾け声掛けや態度に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成28年5月まで成年後見人制度を利用されていた利用者もおり学べる機会を持つことが出来ました。新たに生活保護を利用されている利用者の方がおり勉強中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文面を読みながら、わかり易い説明を心掛けている。疑問や不安に思われる点についても理解、納得がいくまで十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、又は家族の面会時に近況報告を行い、意見や要望も聞くようにしている。要望があれば会議などで話し合い反映させるようにしている。	年1回、家族会を開催して、家族間の交流や親睦を図っている。毎月、請求書と一緒に写真を掲載した「家族便り」を送付しているが、利用料はホーム持参を原則としており、面会時等に家族の意見や要望を聞く機会も多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からスタッフとのコミュニケーションを図り、意見や要望を聞くようにしている。また、フォーユー会議・全体会議・ユニット会議などでその意見が反映できるように努めている。	年度当初に各職員が自己目標を設定し、検証、評価して意識の向上に努めている。各種委員会もあり、年間計画表を作成して研修に力を入れている。職員の年齢層も幅広く、コミュニケーションと愛和を図る事に取り組んだ結果、職員同士の関係が円滑になったようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が本当にやりたい事が出来るような環境作りに努めている。又職員の家庭の事情なども考慮しながら勤務が出来るように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量が違うのでその時にあった研修会の参加や資格取得の為にスキルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活歴や心身の状況などを把握し、本人の要望を聞きながら、安心して生活が送れるように馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前までの家族負担、不安などを聞きながら、不安を解消してより良い関係づくり、サービスの提供が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び、家族の要望を確認、把握しその人にあつた必要なサービスを提供出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている機能を発揮してもらいながら、人生の先輩として日々の生活の中でいろいろ教えてもらったり一緒に作業しながら良い関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の状態を報告したり、月一度個人便りや家族便りを送ったり、いつでも家族と外出でき、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や近所の方などの面会もあり、馴染みの人との関係も継続出来ている。また、地域行事へ参加したり行きたい場所へ出掛けられる様支援も行っている。	利用者同士が知り合いの人や夫婦で入所している人もいる等、顔馴染みの関係もある。元家族のお寺の住職の計らいでホーム内でお彼岸供養が出来るのも嬉しい。中には家族と墓参りに出かける人もいて、それぞれの馴染みの関係が継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごす時間には、利用者同士が気軽に楽しく過ごせるよう職員が間に入ってコミュニケーションをとり、孤立させないよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、医療機関などへ面会に行ったり、家族からの相談にも随時対応出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がうどんを作りたいと言う事で家族に機械を持ってきてもらい手作りうどんをみんなで作って楽しんでいる。	一人ひとりの思いや希望を把握して畑仕事や草取り等の役割を担ってもらったり、本人が希望する京都へのバス旅行を職員が数人同行する事で実現した例もある。重度で意思表示が困難な人は、職員がその人の表情やしぐさで推察するようにしている。	話をしたり自分の希望を言える人も多いので、利用者と職員が1対1で、1日1組のペースで「10分間ケア」をしてはどうかと思う。会話の内容等を記録して職員間で共有したり、利用者の意向や希望をケアプランにつなげて欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集し、過去の出来事や状態など把握している。職員間でも情報共有出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や関係者などから日々の生活のリズムや心身の状態を聞き、把握し生活記録へ記載する事で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をもとに話し合い、その意見を反映させながら介護計画を立てている。スタッフ全員でカンファレンスやモニタリングを行い作成するようにしている。	利用者の担当制を敷いており、個々の状態をアセスメントして解決すべき課題を把握しながら、本人・家族のニーズを捉え、職員間で定期的又は随時、話し合いながら包括的自立支援プログラムを使用しプランを作成している。	生活記録の記入を工夫して、利用者の意向や希望を職員間で共有し、利用者の満足感やここでの生活の楽しみが得られるような具体的な目標につなげてみてはどうかと思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の状態や変化を記入すると共に、内容によっては色を変えたり枠で囲むなどして誰が見てもわかり易い工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加した役場の方や地域住民の方々との情報交換をしながら、利用者が安心した暮らしが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関および以前からのかかりつけ医への受診は継続している。また週1回、提携しているかかりつけ医の往診もしている。	隣接している医療機関の医師が週3日、看護師同伴で気軽に立ち寄り利用者の状態を観察している。今日も昼食時間に訪問があり、食事の様子や形態を見ながら利用者へ声かけをしている場面があった。歯科医師の訪問診療もあり、職員に看護師がいるので安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を把握し、特変事などには報告、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時など医療機関へは必要な情報提供を行い、スムーズに治療が行われるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には十分な説明を行い理解をいただいている。状態に変化があった場合には、その都度家族や主治医と話し合いを行い早急に対応出来るように支援している。	これまで3名、この1年間でも2名の看取りを実施した。「終末期ケアにおける確認書」に基づき、医療機関・家族・職員等と連携をしながら出来る限りの支援をしている。最期は家族も立ち会い、職員がエンゼルケアをして見送ることが出来、家族からの感謝の言葉もいただいた。やりきったという達成感を体験した職員もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはマニュアルに基づいた対応が出来るように勉強会を行い、実践で活かせるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成しており、年2回の避難訓練を実施している。消防署、役場、地域住民の方にも参加していただいている。	防火委員会もあり年1回は夜間を想定した訓練を行っている。毎年、運営推進会議と同日に利用者も一緒に避難訓練をしており、今秋には消防署立ち会いの下、水害・土砂災害を想定した避難訓練等を運営推進会議のメンバーと共に実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した対応を心掛けながらケアを行っている。特に言葉かけには注意している。	利用者の傍で小声で声を掛け、排泄時にはドアを閉める等、羞恥心やプライバシーに配慮しており、同性介助をしている人もいる。職員は接遇マナーの勉強会をして、利用者の尊厳を大切にするように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを聞き、出来る限り自己決定や支援が出来るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には日々の流れは決まっているが、心身の状況や、その日の体調に応じた個別対応をするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ない方にはスタッフがその人らしいコーディネートを考え支援している。2ヶ月に1回は訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には業者に委託しているが、週に1回は利用者に食べたいメニューを聞き、リクエストに答えるようにしている。又利用者と一緒に手打ちうどんや巻き寿司、おはぎなど作ったりしている。	両ユニットとも自力摂取できる人が多く、身体状態によりミキサー食の人、刻み食の人もある。全介助の人には職員がマンツーマンで話しかけながら、ゆっくりと接していた。誕生日には職員手作りのケーキで祝う等、楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部に委託している管理栄養士の作成したメニューを食べており栄養の確保は出来ている。水分は1日1000～1500ml飲むよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや口腔ケアを行っている。出来ない方にはスタッフが介助し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態を把握し、声掛けや介助を行っている。	便座での排泄を基本とし、排泄チェック表で個々の排泄リズムを把握し、適宜声かけ誘導をして自立支援につなげている。トイレと風呂場が直結しており、排泄の失敗時にも迅速に対応でき、清潔を保つことが出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、出来るだけ食事や水分で対応できるよう取り組んでいるが、便秘のひどい方には薬を使つてのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴日は決まっているがその日の状態や気分に応じて、別の日でも本人の希望により入浴出来る様にしている。	基本は週2回、殆どの方が一般浴槽で入浴をしているが、重度の人はシャワー浴、ミスト浴、足浴等、二人介助で対応している。時には気分が入浴拒否となる人もいるが、無理強いせずタイミングや声かけを工夫して入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに合わせて、何時でも休息や入眠が出来るようにしている。室温や環境にも配慮し安心感を持ってもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ずつのケースに分けて管理している。状態や処方内容に変化があった場合は業務日誌に記載し周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、お膳拭きなど主婦をしていた経験を活かし、役割をもってやっていただけのように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事では戸外へ出掛けられる様計画を立てている。また、買い物や散歩などを行ったり、家族の協力を得て、いつでも外出や外泊が出来るように支援をしている。	外出支援には力を入れており、花見は毎年、行く場所を変えたり、桜・椿・紅葉見学等に行き気分転換してもらっている。外食の時、回転寿司店の「新幹線」に利用者がとても喜ばれた事もある。日常的な散歩の他、孫娘の結婚式参加に職員が同行する等の個別支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で管理しているが、希望に応じて本人がお金を所持している。又買物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけて話が出来るようにしている。手紙やはがきなどのやり取りも何時でも出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には表札を設置している。玄関とホールにはイベント時に撮った写真を貼ったり、季節の花を飾ったりして居心地よく過ごしてもらえるようにしている。	両ユニットにウッドデッキと芝生の庭があり、天気の良い日は外気浴、日光浴をしたり、食事等を楽しんでいる。利用者がユニット間を自由に行き来し、合同レク等をして一緒に過ごす時間も多し。今日も明るい歌声がリビングに響いていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下には長椅子を設置し、いつでも気軽に誰とでも過ごせるような空間づくりを提供出来るよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、テレビなどを自由にもちこんでいただき、その人らしい居心地のいい部屋作りになるよう工夫している。	位牌を持ち込んでいる人や畳敷きのベッドを利用している人もいて、これまでの生活習慣を大切にしている。床に転倒・転落防止のマットを敷くなどの工夫も見られ、安全対策にも配慮する等、過ごしやすい環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど見て分かる工夫をしている。環境整備にも努め、安全面の工夫に取り組んでいる。		